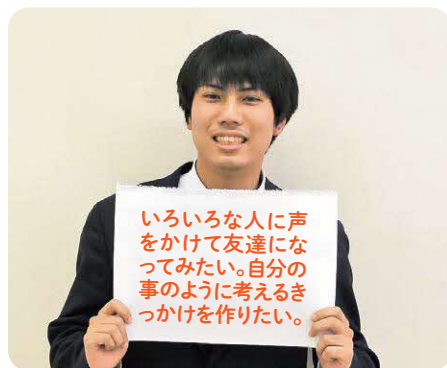
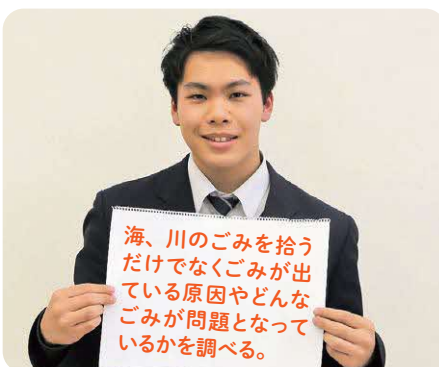




主な内容

- <特集> ひと輝くまち みさき 青野町長所信表明……………②～③
- こんなことが決まりました……………④～⑤
- 美作高校合同研修会……………⑧
- 10議員が町政を問う……………⑨～⑯

特 集

ひと輝くまち みさき

青野町長 所信表明



2期目の抱負として、3大プロジェクトの施設を計画どおり確実に完成させ事業展開を進める。特に子育て・教育に力を入れ、少子化対策・人口減対策につなげていき、人が減っても元気に暮らせるよう小規模多機能自治を引き続き進め、(ひと輝くまち みさき)の実現に全身全霊で取り組む。

誰もが集える交流拠点施設整備

美咲町多世代交流拠点を令和5年6月をめどに設計を進め、7月建設工事に着手し令和6年10月の完成を予定している。旭地域の整備については、令和5年度早期の着手を目指す。



笑顔のあふれる子育て支援

町の未来のため、子どもの笑顔があふれる町を目指して、子ども・子育て支援策の総合窓口として(仮)こども笑顔課を新たに設置し、子どもの幸せ最優先の取り組みをオール美咲町で実現していく。



小規模多機能自治の実現に向けて

各協議会では小規模多機能自治組織への移行の準備が着実に進められている。地域課題やこれからの地域づくりについて、順次地域住民が主体となって移行が進んで行くものと期待している。



積極的な農業振興

農林水産省の人材を登用し有利な施策をスピーディーに取り入れ、職員のスキルアップにつなげて(仮)農業ビジョンを策定していきたい。また、地域コミュニティの維持に向けて農村 RMOを支援する。



誰もが楽しめる児童公園

中央児童公園が誰でも楽しめる安全で安心な憩いの場所になるように、新しい遊具の設置、公衆トイレの改修を行い、春のリニューアルオープンに向けて取り組む。



官民連携を強化

「官民共創」を推し進め、住民の生活を豊かに、企業にとっては新規事業の開発につながり、行政にとっては社会課題を解決するといった関係を築いていく。



若者・子育て世代向け宅地整備

定住する若者を増やすには、住まいの選択時に本町を選んでもらえるよう良好な住環境を提供することで、若者の流出を抑制し、定住促進につなげていきたい。



所信表明に対する質疑

(仮)こども笑顔課の内容

板垣正寿 議員



問 (仮)こども笑顔課を新設するにあたり、子育て支援として重点的に取り組む具体的な内容は。

答 子どもの幸せ最優先の支援策を図れるよう(仮)こども笑顔課の設置などについては、関係の保護者や当事者の子どもの話をしっかり伺った上で必要な施策を講じていく。

官民連携の新規事業

藤井智江 議員



問 官民連携による企業にとっての新規事業とは何か、またどのようなことをイメージしているか。

答 激動の世界情勢の中で新たな経営戦略を町と一緒に考えていただき、お互いにウィン・ウィンの関係を築くことが可能になり得る事業だとイメージしている。

宅地整備はどこに

延原正憲 議員



問 若者子育て世帯向け宅地整備について、具体的な候補地を考えているのか。

答 現在は原田地内で宅地整備工事を行っている。他に候補地を、旭・中央・柵原地域において、それぞれ検討しているが具体的には決まっていない。

に向けて環境整備を実施

一般会計補正予算6億7,352万円など18件の議案が議決されました。

児童公園の環境整備

児童公園の支障木の伐採、転落防止用安全柵、東屋の設置など公園環境整備を行う。

〔児童公園管理費 1,250万円〕



3年間の一般廃棄物業務委託

令和5年度から令和7年度の業務期間の一般廃棄物収集運搬業務を委託するため、将来にわたる債務を負担する行為の補正を行う。

〔債務負担行為補正限度額 3億4,000万円〕



ナラ枯れ・松くい虫被害の防止

ナラ枯れ、松くい虫被害対策を行うことで地域の森林環境保全につなげるため、不足分を増額。

〔森林病虫害駆除事業 123万円〕



ふるさと納税で町産品をPR

ふるさと納税で町産品のPRをするため返礼品や事務的な必要経費の財源を確保する。

〔ふるさと納税特産品贈呈事業 2,427万円〕



契 約

◎契約について提案があり、審議の結果全会一致で承認した。

【工事請負】

◇柵原地域義務教育学校建設事業

美咲町立柵原学園造成工事(13工区)(ゼロ町債)

(株)戸板組(美咲町)

5,422万円

請願・要望

商工業振興事業補助金(小規模事業者経営改善普及事業及び地域総合振興事業)の予算措置についての要望

久米郡商工会

会長 福島 一壽

これまでの実績を踏まえ、商工会のさまざまな取り組みや小規模事業者の振興発展、農林業者の活性化を図る事業推進に期待し採択とした。

12月議会

でこんなことが
決まりました

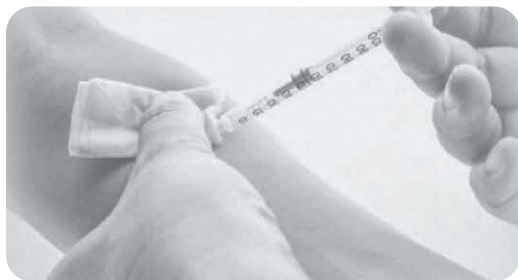
誰もが楽しめる児童公園

令和4年12月12日～23日まで定例議会、2月1日に臨時会が招集され

コロナワクチン接種

新型コロナウイルス感染症の拡大防止と感染時の重症化を予防するためコロナワクチン接種体制を確保する。

〔予防接種事業費 322万円〕



妊娠・出産・子育てを応援

全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境を整備するため一人10万円の給付金を支給する。

〔民生費 941万円〕



畜産事業者を支援

昨年発生した鳥インフルエンザなどに対する家畜防疫の観点から畜産事業者を支援する。

〔畜産業費 373万円〕



公共施設の電気代を追加

電力価格が高騰し、役場庁舎や小・中学校の電気代が高くなったため増額補正を行う。

〔施設管理費 1,691万円〕



条例

〔職員の定年等に関する条例の一部改正〕

地方公務員法の改正による職員の定年引上げに関する関係条例の改正等を行うもの。

〔美咲町立義務教育学校設置に伴う関係条例の整備等に関する条例〕

美咲町立義務教育学校設置に伴い、関係条例の整備を行うもの。

美咲町議会がマニフェスト大賞 躍進賞を受賞

日本最大の政策コンテストである「第17回マニフェスト大賞」授賞式が東京で開催され、美咲町議会が「躍進賞」を受賞しました。



委員会 の活動

総務・産業常任委員会からの報告

総務・産業常任委員会は、総務課、理財課、地域みらい課、くらし安全課、上下水道課、建設課、産業観光課、各総合支所地域振興課が所管する予算その他の案件について審査を担当しています。

委員長／山本宏治 副委員長／延原正憲 委員／中西伶王、矢吹一郎、山本 資、松田英二、松島 啓の7人で審査しています。

【総務課】 物価高騰の影響

問 庁舎の電気代高騰に対する
今後の対応は。

答 電気代は事務的経費であり今
後必要分を計上していくが、
来年度も高騰が続く見込み。

【理財課】 減債基金の償還

問 減債基金の償還はどこに充
当するのか。

答 過疎対策事業および過疎ソフ
ト事業を計画している。4億7、
000万円を償還する。

【くらし安全課】 債務負担行為の執行

問 債務負担行為およびバス運
行事業の執行は。

答 債務負担行為の執行は年度
内に入札を行い、次年度から
バスを追加運行する見込み。



飯岡地内の下水道工事の現地視察を
行った。

電気融解による融着接合での下水道
管接合作業を見学した。

今後は、飯岡農業集落排水が柵原公
共下水道に接続される。

【建設課】 新旦土橋の費用負担

問 旭地域の新旦土橋の架け替
えに係る費用負担の状況は。

答 国の交付金事業にならなかつ
たため、県に移譲され負担金
が発生した。

【産業観光課】 インバウンド事業の状況

問 インバウンドに対する英語の
基礎研修はあるのか。

答 国家資格所有者を本町に迎
え、ミサキアエルで研修を行
う予定。

【地域みらい課】 移住定住に向けてのPR

問 本町の移住定住 PRに向けた
取り組みはあるのか。

答 連携中枢都市関連自治体と共
に大阪・東京で移住相談会を
開催した。

民生・教育常任委員会からの報告

民生・教育常任委員会は、住民税務課、保険年金課、健康推進課、徴収対策室、福祉事務所、教育総務課、生涯学習課、各総合支所地域振興課が所管する予算その他の案件について審査を担当しています。

委員長／形井 圓 副委員長／小林達夫 委員／則吉洋介、三船博之、板垣正寿、藤井智江、左居喜次の7人で審査しています。

【住民税務課】 税の増額補正予算

問 固定資産税4,142万円の増額補正の理由は。

答 当初はコロナによる滞納を見込んでいたが、影響を受けなかったため。

【健康推進課】 西川診療所の指定管理

問 西川診療所の指定管理者と指定期間は。

答 管理者は社会医療法人緑社会で、期間は令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。

【保険年金課】 精算金の確定

問 後期高齢者医療給付費精算金4,259万円の歳入は。

答 令和3年度市町村別給付実績処理の完了に伴い市町村療養給付費が確定したため。



中央児童公園の現地視察を行った。
古い遊具が撤去され、今年度中には新しい遊具が設置される。

子どもの笑顔があふれる本町の新しいランドマークになることを期待する。

【生涯学習課】 児童公園の管理費

問 児童公園の管理費が増額補正されている理由は。

答 中央児童公園の完成に伴い、支障木の伐採などの公園環境整備のため。

【教育総務課】 学校管理費の増額

問 学校管理費が大幅に増額されているが、理由は何か。

答 小学校費836万円、中学校費355万円の増額は、電気代の高騰によるものである。

【福祉事務所】 補助金の増額

問 補助金の増額をしたが、収入減少などの相談はあったか。

答 子育て世代へ水道使用料の補助金を増額したが、生活保護などの相談はない。

美作高校生と議員の合同研修会



～高校生と大人が一緒に取り組めることは!?～

美咲町議会では、持続可能な社会を目指す「SDGs」をテーマとして若い世代との交流を深める活動を続けています。今回は、「九州大学大学院客員准教授・加留部貴行先生」を講師にお迎えして美作高校生8人と「高校生と大人が一緒に取り組めることは!?」と題した合同研修会を実施しました。

未来ある高校生たちの活発な意見には、頼もしさを感じる場面が数多くありました。



美作高校白梅ホールにて

高知市立義務教育学校「土佐山学舎」を視察



英会話でコミュニケーション

土佐山学舎は平成27年開校の義務教育学校である。開校時の児童生徒数は98名。集落存続の危機を打開するため、学校が地域活性化の中核となる魅力ある学校づくりに挑戦。英語教育に力を入れながら地域ぐるみの小中一貫教育の利点を生かし、あえて中山間地域に子どもたちを呼び込む「選ばれる学校」の教育モデルとなっている。

現在、児童生徒数は138人(内、校区外は73人)。

町政を問う

一般質問は町民を代表し、

町長・教育長などに

町の方針や施策を問います。

ページ	議員名	質問内容
10	左居 喜次	1. 住み続けたいと思うまちづくりを 2. 初期の目的を終えた施設の方向性は
11	延原 正憲	1. 柵原インターチェンジの有効活用を 2. 柵原観光マップの有効活用を
12	中西 伶王	1. 黄福タクシー要綱の改変は 2. どう取り組む農業振興
13	板垣 正寿	1. 校則を見直す場は用意できているか 2. 不登校児童生徒に対する支援の充実を ◇ 主権者教育の充実を求める
14	山本 資	1. 国の農業政策確認時期は 2. 美咲桃太郎伝説をどう活かすのか
15	矢吹 一郎	1. 子ども家庭庁創設への対応は 2. 農業施策の見直しへの対応は ◇ 民法改正への取り組みは

ページ	議員名	質問内容
16	三船 博之	1. 農地中間管理機構の現状は 2. 公有財産（施設）の処分は
17	藤井 智江	1. 4・3・2制は慎重にすべきでは 2. 带状疱疹ワクチンへの助成はできないか ◇ 国民健康保険の現状は ◇ 介護保険の今後は
18	松田 英二	1. 資源ごみ集団回収奨励金の増額を
	則吉 洋介	1. 人口減少対策の具体策は

議会だよりには、2問まで掲載しています。
質問の状況については、
美咲町YouTubeチャンネルで
確認していただけます。

美咲町指定天然記念物 随神ヒノキ(推定樹齢250年) 江与味の八幡宮社叢
※大ムクロジ、三本杉 (推定樹齢400年)

方城興局

質問

住み続けたいと思うまちづくりを

答弁

町民に焦点を当てた施策を優先



左居喜次(さこ よしつぐ)議員

問

亀甲駅のリニューアルされた看板

には町内3地域を代表する景色が紹介されている。

しかし、町内を回ってみると、道路は草や木で覆われ、農地は荒廃し、多くの空き家が見受けられる。

また、リニューアルされた看板にも紹介されているが、まさに町の看板である棚田でさえ維持できない状況にある。

魅力を感じ、住み続けたいと思うまちづくりについて、2期目を迎えた青野町長の所見を問う。

答

青野町長

3大プロジェクト

を始めとする4年間の取り組みは、目指すべきまちづくりのプラットフォーム(土台・基礎)を創るものだった。

これから先の4年間は、目指すべきまちの実現に向けて、更なるステップアップを図る。

そのため町民に焦点を当てた、ソフト施策を優先する行政運営にシフトチェンジしたいと考えている。

困っている人をだれひとり取り残さない、みんなで支え合うまちづくりに、町職員と一緒に取り組む。



住んで良かった美咲町に向けて

質問

初期の目的を終えた施設の方向性は

答弁

処分を行い財源の確保や経費の削減に努める

問

3大プロジェクト、また、これまでの施策の見直しにより、初期の目的を終えた公共施設を、目的のないままに町が所有し続けることは、将来に大きな負担を残すことになる。

今後、これらの施設の方向性について示されたい。

答

青野町長

現在進めているプロジェクトで複数の施設を複合化し機能が集約される。目的を終えた施設は、原則、譲渡や解体などにより処分を行い、財源の確保や経費の削減に努める。

問

解体費用の財源はどう確保するか。

答

篠原理財課長

3大プロジェクトに伴う解体費用は、合併特例債を充てる。

問

学校施設については、文部科学省が「みんなの廃校プロジェクト」を立ち上げ、活用方法や民間企業を募集している。

また、その他の施設についても、同様の取り組みを進めたらどうか。

答

光嶋地域みらい課長

文部科学省、町ホームページなどを活用し、情報を公開し、広く募集をかける。



募集いたします。有効活用



延原正憲(のぶはら まさのり)議員



質問

答弁

柵原インターチェンジの有効活用を

新たな地域づくりに向け検討する

問

美作岡山道路事業の用地補償説明会が開催されるなど、事業が実質的に動き始めた。

①滝谷池堤体撤去工事の着工はいつか。

②11月19日開催の物件移転調査協力者との懇談会の実施状況は。

③11月26日の内水対策説明会の開催状況は。

④飯岡地区での公共施設整備計画は。

⑤柵原インターチェンジの有効活用企画は。

答

前田建設課長

①岡山県が令和5年の出水期までには、堤体の一部を撤去する計画である。

③排水ポンプだけの対



真剣に聞き入る住民説明会

応策では不安があるとの意見があり、遊水池も併用する案を地元提案した。

②対象者22名の内14名が参加し、穏やかな状況の中で個々の話を聞いた。

③11月26日の内水対策説明会の開催状況は。

④飯岡地区の皆さんからの要望を踏まえ、県が対応するもの、町が実施するものなど区分・整理し、事業化を図りたい。

⑤本町の東の玄関として、オール美咲町で、夢を持って、新たな地域づくりに向けて検討する。

答

青野町長

今後でも対応していく。

問

柵原観光マップの有効活用を求める。

柵原地域に設置されている観光案内看板6基が放置されたままになっている。

①9月の台風14号で1基が倒壊した。残る5基の安全点検は実施したか。

②令和2年9月議会で、調査の上リニューアルを検討する旨の答弁があったが、検討結果は。

③書き換えなどリニューアルして有効活用すべきではないか。

答

林田産業観光課長

①台風後すぐに安全点検を実施した。点検の結果、高下、塚角の2基は安全面から撤去を考えている。

質問

柵原観光マップの有効活用を

答弁

本町全体での看板配置を検討する

②議会後に、食堂かめつち。と美咲町物産センターに※デジタルサインージを設置した。最新の情報発信できる環境を充実させ、効果的な情報発信を行う。

③案内看板は来町者へのPR媒体として効果があると認識している。

※デジタルサインージ映像による電子看板

今後はSNSなどで



いらっしやい美咲町へ



中西伶王(なかにし れお)議員

質問 黄福タクシー要綱の改変は

質問

答弁 公共交通会議で十分検討したい

答弁



問 現在の黄福タクシーの利用者数および利用状況は。

答 浦上くらし安全課長 黄福タクシーの登録者数は、令和3年度末で3,059人である。

また、1,645人が令和3年度に利用しており、全体では3万5,579回の運行をしている。

内訳としては、地域内、旧町内が2万3,529回、町内利用が1,787回、町外の利用は1万263回となっている。

なお、黄福タクシーの事業費は、令和元年度、2年度、3年度の

いずれも7,000万円前後を町が負担している。

問 健康者と障がい者のはさまに位置する人など、黄福タクシーを利用したくても利用できない人もいる。

今後、黄福タクシーを利用しやすい要綱へ改変はできないか。

答 浦上くらし安全課長 どのような支援

が必要であるか課題を整理し、横断的に対応していく必要がある。

事業費の増加も想定されることであり、制度の見直しや運営に関しては、公共交通会議などで十分検討したい。



質問 どう取り組む農業振興

質問

答弁 人事交流を行い体制強化を図りたい

答弁

問 本町の基幹産業である農業を、今後どのような体制で守り、振興をしていくのか。

答 青野町長

今後一層の農業振興を図るため長期的視点に立ち、本町の農業施策の基本的方向性を定める(仮称)農業ビジョンを策定したいと考えている。

具体化していくためには、国や県などの動向を注視し、情報収集や有益な施策などにスピーディーに対応できる体制も重要である。

農業振興を図るため、県農林水産部農産課に加え、農林水産省と人



持続可能な農業振興を

事交流を実施し、体制の強化を図りたい。

農林水産省から人材を登用することで、職員が刺激を受け、他団体の成功事例や国の財政的支援情報など、多くの有益な情報を得る。農林水産省で培った能力を生かし、農業振興に寄与してくれると期待をしている。

問 (仮称)農業ビジョンを策定した後に、本町の農業の実態を改善することが可能なのか。

答 青野町長

少しでも本町の農業の状況が改善できるよう、これから取り組みたいと考えている。



板垣正寿(いたがき まさとし)議員

質問

校則を見直す場は 用意できているか

答弁

絶えず見直しを図るよう指導する



問 各中学校の校則は、生徒、保護者が確認できる状態になっているか。

生徒、保護者、地域の校則に関する意識を高めるとともに学校での見直しを促すため、文部科学省が示している取り組み事例の通り、校則を学校ホームページで公開することはできないか。

また、生徒、保護者と校則を見直す場は用意できているか。

答 結石教育総務課長 校則について普段から学校関係者以外



みんなでルールを考えよう

であつても学校ホームページなどで確認できるようにし、児童生徒がさらに自主的に遵守でき、校則が自分事と捉えられるよう事例の紹介をし、必要に応じて見直しをするよう助言する。

校則の見直しは、生徒会、PTAでの協議を経て学校に要望し、職員会議を経て学校長が決定する。

校則が社会通念上合理的か、教育目標の実現につながっているか、絶えず見直しを図るよう指導する。

質問

不登校児童生徒に対する 支援の充実を

答弁

ICTを活用した

支援の可能性を進めたい

問 不登校は悪いという根強い偏見を払拭し、学校・家庭・社会が理解と受容の姿勢を持つことが最も重要である。この趣旨について周知できているか。

また、登校や学校復帰という結果のみを目標とせず、個々の状況に応じて、教育支援センター、不登校特例校、フリースクール、※ICTを活用した学習支援など多様な教育機会を確保できているか。

困りごとの相談先や学校の良さなどを広報する形での周知を検討する。

学校を選択しない児童・生徒においては、専門的な機関と連携し、社会的自立を図ってみたい。

※ICT 情報通信技術

すべての子どもに教育機会が確保されるよう、今後も専門機関との連携強化を図り、支援、対策に努める。

今後はICTを活用した支援の可能性を進めたい。



いろんな学びがあるんだね

質問

国の農業政策確認時期は

答弁

補助事業のルールに従って
対応する

山本 資(やまもと たすく)議員

問

本町は緑に囲まれた自然環境に恵まれている。

これは、先人たちのたゆまぬ努力と町民の郷土愛によって守られてきた。

近年では、美しい景観の形成や自然環境の保全は、中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度など、行政の支援を受けながら地域農家が日々担っている。

しかし、気象状況の変化や鳥獣害対策など、地域農業の在り方は変化しており、各種制度の手続きや確認時期が農繁期と重なり、制度

を活用できていない人もいる。

スムーズな制度活用ができるよう柔軟な事業執行を求める。

答

林田産業観光課長
中山間地域等直

接支払制度、多面的機能支払制度については、本町の農村環境を維持していくために不可欠の制度である。

両制度の活動に参加している皆さん、取りまとめをしている皆さんに感謝している。

気象状況や地域農業の在り方などの変化については、国の補助事業のルールに従って柔軟に対応していく。



がんばるぞ 環境保全

質問

美咲桃太郎伝説をどう活かすのか

答弁

観光振興につなげるよう検討する



問

美咲桃太郎の会を中心として盛大にサミットが開催され、感銘を受けた。

本町の認知度向上に大いに貢献したと思う。

今後、桃太郎伝説発祥の地をどのように観光振興に活かすのか。

また、郷土の歴史や文化をしつかり学んでもらい、本町の未来を託すことができるような児童・生徒の育成に向けた考えは。

答

青野町長

今回のサミット開催の意義は、多くの町民が支えあいながら、



日本一の美咲桃太郎伝説

地域の歴史や文化の灯かりを受け継ぐとともに、町内外の人たちとの交流の輪を広げることにあると考える。

また、観光振興を図る上で絶好の機会であり、本町を売り込む大きな魅力である。

今後、観光振興につなげるなど検討したい。

答

平賀生涯学習課長

美咲桃太郎伝説をきっかけとして、その地の歴史や文化を再認識する郷土学の実施などを通じて、児童・生徒の郷土愛を醸成し、将来の本町を担う人材育成を図りたい。



矢吹一郎(やぶき いちろう)議員



質問

子ども家庭庁創設への対応は

答弁

組織体制の見直しを検討する

問

国は、子どもを政策の真ん中に置き最重要課題として取り込む方針である。少子化対策、子育て支援の先行事例として、今回の補正予算で、伴走型相談支援と経済支援の充実を図るための予算を計上した。

①令和5年度の子ども家庭庁創設に伴い「子ども基本法」が成立したが、町長の所見を問う。

②国は、省庁の縦割りを廃し、子ども・子育て支援策にかかわる、子ども施策の司令塔として『子ども家庭庁』を創設するが、本町の事務体制の取り組みについて問う。

答

青野町長
①2期目の町政運営にあたり、子どもの笑顔があふれる町を目指すことを公約として掲げた。

子ども・子育て支援策は主要施策である。子どもたちの意見にもより一層耳を傾けるなど、子どもたちが笑顔となるよう役場の全ての課が連携し取り組む。

②岡山県では、仮称『子ども・福祉部』を創設する予定と聞いている。国・県の動向を踏まえ、子どもの幸せ最優先の支援策が図れるよう、仮称『こども笑顔課』の設置など、組織体制の見直しを検討する。



子どもの笑顔がみんなの笑顔

問

国は新しい資本主義のもと3本の柱を掲げ取り組んできた。

しかしながら、今回のウクライナ侵攻などにより、食料安全保障上のリスクの高まりを受け、20年ぶりに総合的な検証を行い、見直しの検討を開始している。

そして、食料安全保障を4本目の柱として食料の増産を推し進め、中・長期的に展開する方針である。

それらに対応した本町の取り組みを問う。

林田産業観光課長
国においては「食料・農業・農村」政策審議会で一年程度かけ議論される見込みであ

質問

農業施策の見直しへの対応は

答弁

国の施策に沿った方向で進めたい



大きくなあれ 美咲の農業

食糧安全保障への強化に向けての構造転換対策として、水田活用強化ビジョンを改正し実施する予定である。

また、農業版小規模多機能自治とも言える「※農村RMO事業」の推進も行う。

※農村RMO
中山間地域の保全のための地域運営組織

さらに令和6年より



三船博之(みふね ひろゆき)議員

農地中間管理機構の現状は

質問

信頼できる制度になるよう努める

答弁



問 農地中間管理機構を利用しての、耕作地の出し手と受け手の状況・貸し出した後の農地の管理状況は、どのようになっているか。

答 林田産業観光課長 本町では、貸付希望面積を上回る借受希望面積となっている。

貸し付けた農用地などが適正に利用されるために貸付先に対して、利用状況の報告を求めているようになっている。現地調査を行うなど、状況を把握し指導する事になっている。

問 国・県の施策であるが、適正に利



農地の適正な利用を

用されていない農地が見受けられる。窓口である本町が積極的に取り組み、制度の目的を達成すべきではないか。

答 林田産業観光課長 地域の話し合いの中で、この制度が信頼できる制度になるよう努める。

問 農業版小規模多機能自治とは何か。

答 林田産業観光課長 複数の集落機能を補完し農業を核として、経済活動と併せて生活支援・地域コミュニティの維持をしていくことで農村RMOを設立していきたい。

国・県の施策であるが、適正に利用されている。現地調査を行うなど、状況を把握し指導する事になっている。

公有財産(施設)の処分は

質問

審議会の意見を聴きながら進める

答弁



待ったなし!行財政改革

問 広報みさきの行財政改革のページに、公有財産マネジメントの推進については、令和8年までに方針・方向性を示すように決定したと載っていたが、具体的な動きをもっと早く進めるべきではないのか。

答 青野町長 賢く収縮するまちづくりに向けて、公共施設の再編成は避けて通れない問題だ。令和8年まで待つのではなく目的の終わった借地の上に建つ施設については、将来に負担を残さないためにも、地権者と話しを行い町

民の理解と協力を得る。行財政改革審議会の意見を参考にして進めていく。

問 合併特例債の使用はどのようになっているのか。

また、借地にある施設の取り扱いはどうなるのか。

答 篠原理財課長 美咲町公共施設等総合管理計画に基づき、建築系公共施設のそれぞれの個別施設計画を立てていく。

現在、行財政改革審議会の専門部会で策定を進めている。



藤井智江(ふじい ともえ)議員

質問

4・3・2制は慎重にすべきでは

答弁

慎重に協議検討の上決定している



問

①町長は学校を拠点とした柵原地域づくりについて、今の進捗状況をどう捉えているか。



どんどん進む義務教育学校

②各関係者代表が、組織の意見を集約し協議しているが、全体説明会の機会を今後の状況などを踏まえて検討する。

③学校では、生徒指導の観点から原案を考え、教職員・児童会・生徒会・保護者で検討し課題や疑問点が出た場合は随時、子どもたちとともに検討や見直しを行う。

④これからの教育のあり方への対応や子どもの発達段階など慎重に協議検討の上、2年以上の時間をかけ開校準備検討委員会で決定されている。

答

結石教育総務課長

①学校を拠点とした地域づくりは、地域の活性化を目指し、地域・学校共同活動として既に取り組みを開始している。

質問

帯状疱疹ワクチンへの

助成はできないか

答弁

国の審議状況を注視し検討

問

帯状疱疹ワクチンについて9月議会と同僚議員ご自身の体験、治療費の積算などを示して助成できないかと質問したが、町民からの強い要望があり、再度質問する。

ら1万円である。遺伝子組み替えの活性ワクチンは2回接種が必要で予防効果は90%、有効期間は9年程度、費用は1回2万円から2万5,000円である。

いないが、定期接種化に向け厚生科学審議会・予防接種ワクチン分科会で有効性や安全性、費用対効果など定期接種化へ向け審議が行われている。

問

①ワクチンは有効か。

問

②有効期間は。

問

③単価はいくらか。

問

④助成はできないか。

答

平健康推進課長

①ワクチン接種は、発症の予防、重症化を防ぐ効果がある。

現在、50歳以上の人へのワクチン接種が可能である。

②③弱毒化ウイルスの生ワクチンは、1回接種で予防効果50%で有効期間は5年から7年、費用は7,000円か

④予防接種法に基づく予防接種に指定されている。

助成については、国の判断を注視し検討する。



質問

資源ごみ集団回収奨励金の増額を

答弁

ごみ減量化へ総合的に検討する



松田英二(まつだ えいじ)議員

資源ごみ集団回収推進団体奨励金

年度	団体数	資源回収数量	奨励金額
令和4	17	55.6t	27万8,005円
令和3	29	111.1t	55万5,770円
令和2	31	109.4t	54万6,995円
令和元	36	142.2t	70万3,200円
平成30	35	153.0t	76万5,230円
平成29	33	147.8t	73万9,257円
平成28	34	120.8t	59万2,357円
合計	延べ215	※840t	※418万円

※奨励金対象＝紙・雑誌・段ボール・缶・牛乳パック・衣類
 ※ごみ処理量＝3400トン ※ごみ処理負担金＝約6000万円
 ※100トンのごみ処理負担金＝約170万円

問

本町が加盟する
津山圏域資源循環
施設組合では、令和4
年1月から「ごみ減量
共同宣言」を行って
いる。

本町では平成23年度
から資源ごみ集団回収
(廃品回収)を実施す
る団体に対して奨励金
を支給しているが、こ
の奨励金を増額する事
で資源の再利用やごみ
を減らす住民意識の強
化を図るべきである。

答

桜井住民税務課長
津山圏域クリー
ンセンター安定稼働の
ためには、古紙や布類
を再資源化する協力団
体を増やしていく事が

問

不可欠であり、奨励金
の見直しなど総合的に
検討する。

津山圏域クリー
ンセンターの建設
には100億円近い費
用が掛かっている。

答

青野町長
奨励金の見直し
だけではなく、全体的
な制度設計の見直しを
行い、町全体としてご
み減量化に向けて総合
的に検討していく。

質問

人口減少対策の具体策は

答弁

多角的な取り組みを行う



則吉洋介(のりよし ようすけ)議員

問

岡山県下ワース
トの人口減少が続
いているが具体的な対
策はあるか。

答

青野町長
人口減少は本町
としても最大の課題と
し、町民をあげての取
組みや他の応援も含
めて対策をしている。

若者の定住・移住に
つなげるためには、「住
まい」「子育て」「仕事」
の三つの分野の施策が
重要となってくる。
・「住まい」については
若者や子育て世代に適
した分譲地、空き家な
ど、住まいの選択の幅
を広げ、それにとまな
う経済的支援を行う。
・「子育て」については
若い世代が子育てしや
すい環境への見直しを
行い、子どもたちを取
り巻く問題を総合的に
支援し、子育ては美咲
町でと考えている人た
ちを物心両面で応援し
ていく。
・「仕事」については新
規事業者に対し創業資

1-1(1) 人口の推移(国勢調査)

区分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		平成27年		令和2年	
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	32,864人	20,815人	△36.7%	18,972人	△3.8%	16,577人	△5.6%	14,432人	△7.7%	13,053人	△9.6%
0歳～14歳	10,501	3,718	△64.6	3,085	△12.1	1,935	△13.8	1,615	△8.6	1,423	△11.9
15歳～64歳	19,830	13,645	△31.2	11,431	△6.1	9,000	△8.0	7,217	△13.6	6,205	△14.0
うち 15歳～29歳(a)	6,875	3,622	△47.3	2,391	△6.0	2,131	△14.5	1,428	△19.3	1,230	△13.9
65歳以上(b)	2,533	3,452	36.3	4,456	10.4	5,642	2.0	5,600	△1.4	5,425	△3.1
(a)/総数 若年者比率	20.9	17.4		12.6		12.9		9.9		9.4	
(b)/総数 高齢者比率	7.7	16.6		23.5		34.0		38.8		41.5	

金の2分の1、上限1
00万円を助成する事
業を行うなど、新たな
雇用増加、地域の活
性化のための取組みを
実施している。
また、企業誘致につ
いては産業団地適地調
査を実施するなど準備
を進めている。

おかげ様で好評です 出前議会

議会広報特別委員会では、できるだけ多くの市民の皆さんと意見交換を行う事を目的として各種団体など小さなグループを対象にした「出前議会」に取り組んでいます。

令和4年11月～5年1月にかけて「連石自治会」「打穴西自治会」「連石ぶどう部会青年部」の皆さんから議会の活動や町政全般まで熱のこもったご意見をいただきました。



打穴西公会堂

東北・関東・四国・九州から続々と

美咲町議会が令和3年度全国町村議会議長会特別表彰を受賞して以来、全国の市町村議会から視察研修の依頼が殺到し、東北・関東・四国・九州各地方の議会議員が令和4年10月～5年1月にかけて続々と美咲町に来町されました。



- 福岡県那珂川市議会 議会広報特別委員会(7人) [議会だより視察研修]
- 愛媛県砥部町議会 議会広報常任委員会(5人) [議会だより視察研修]
- 高知県越知町議会 議会議員および事務局(11人) [議会運営視察研修]
- 栃木県塩谷町議会 議会議員および事務局(9人) [議会運営視察研修]
- 福岡県岡垣町議会 議会運営委員会(8人) [議会運営視察研修]
- 秋田県井川町議会 議会議員および事務局(12人) [議会運営視察研修]
- 島根県浜田市議会 議会改革推進特別委員会(9人) [議会運営視察研修]

令和5年3月定例会の予定

- ◆令和5年3月に予定されている美咲町議会定例会は
- ◆2月27日(月)開会～3月17日(金)閉会の19日間
- ◆一般質問は2月28日(火)～3月1日(水)の2日間
- ◆予算特別委員会は3月9日(木)～14日(火)の実質4日間

(なお、日程が変更される場合にはみさきテレビなどでお知らせしていきます)



表紙の紹介

～美作高校 英語ユネスコ部交流会～

美咲町議会では初めてとなる高校生との意見交換会を美作高校英語ユネスコ部と開催できました。

鋭い質問にタジタジになる場面もありましたが、頼もしく感じる瞬間でした。



訂正

美咲町議会だより70号7ページ人権擁護委員人事記事の中で表記に誤りがありました。正しくは[池上佳苗氏(新任)・杉本八重美氏(再任)]に訂正してお詫びいたします。

放課後子ども教室 第5回

美咲町では放課後子ども教室（子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、学習や体験・交流活動などを行う事業）が町内7教室開設されており、その中の6教室は「寺子屋」として委託団体が運営しています。



〔写真はやなはらひがし〕

一緒に
学び
考える

寺子屋 やなはらひがし

子どもたちの学力は確実にアップしています。

●どんな活動ですか

放課後の時間を利用し児童が自主的に宿題や自らの課題に取り組む活動です。また、地域の大人たちが学習活動のサポートに参加して子どもたちの活動を支援しています。

●どこで活動していますか

「やなはらひがし」は毎週火曜日（祝日・学校休業日等は休室）の16時00分～18時30分までの間、北和気コミュニティ会館。

「やなはら」は毎週月・金曜日（祝日・学校休業日等は休室）の16時00分～19時00分までの間、多目的施設柵原集会所で活動しています。

●参加対象はだれですか

「やなはらひがし」は柵原東小学校児童、「やなはら」は柵原中学校生徒を対象にしています。

●具体的な活動内容は何ですか

宿題、学習ドリルなど生徒が個々の目標（学習カードに記入）を毎回決めて、教科学習に取り組んでいます。

●活動で大切にしていることは何ですか

子どもと大人が「一緒に考える」、子ども自身が「やりきる」を基本とし、児童が自ら教科学習などに取り組む姿勢を大切にしています。

●どんなところが特徴ですか

両教室とも地域の大人たちが一人ひとりに寄り添った学習支援活動を行っています。

●運営は誰が行っていますか

みさきスタイルこども応援事業運営委員会（美咲町教育委員会生涯学習課）から委託を受けたNPO法人ファミリーリングあゆむが運営しています。

問い合わせは飯田純子（090-1181-9610）までお願いします。

編集 後記

1月8日には「20歳（はたち）のつどい」が開催

され平成14年度に生まれた若者たち128人が新たな門出を迎えました。

令和4年度からは民法の改正によって成人年齢が18歳になり、本町では平成16年度に生まれた136人の新成人が誕生します。

地元で生まれ、地元で育った若者たちが地元で生活できる基盤を整えていく。そのためには何が必要なのかを聴く活動として美作高校生と議会との合同研修会を開催しました。

若者世代の意見を政策に結びつけることで政治に対する関心を深めてもらう活動を進めていきます。

（三船記）

議会広報特別委員会

委員長 三船 博之

副委員長 松田 英二

中西 伶王

矢吹 一郎

板垣 正寿

左居 喜次